

# 障害者自立支援法が成立!

## 福祉が変わります



二〇〇六年・四月一日より、新しい福祉制度として実施されます。自己負担を前提とした改革であったわけですが、詳細な内容は明らかでなく、そのことが不安や疑問を大きくしています。また、疑問に対して、「丁寧に答えてほしい」「生活の現状をよく調べてほしい」「慎重な審議をしてほしい」という関係者の訴えは聞き入れず、採択を急ぎました。このことは仲間の生活や、はぐるまの運営に大きな変化を及ぼします。具体的にはホーム利用料が、概算で三千万〜一千万程度上ることになります。(個々の収入によって異なります) また施設への補助金等が減る見通しもあり、職員の給与カット・人員削減が・・・!

これからは、福祉に対する考え方を、変えていかないと、大きな法人でも存続が困難な時代になってきたということでは、はぐるまは、これから仲間と共にどんな事態が生じて、より質を高め、はぐるまらしい道を追求していきたいものです。連日、国への働きかけが、なされていますが、川崎市への働きかけも大切だと考えます。国の減っていく福祉予算を補っていた、川崎市独自で上乗せしてきた部分を、カットしないように、市長選が終わったばかりですが、切に要望します。そのための運動にも力を入れましょう。

新法案によって変えることを具体的にお知らせします。できれば市の職員さんを招き

NO. 16

2005年 11月4日

社会福祉法人

はぐるまの会

広報委員会

後援会

川崎市多摩区菅馬場

1-18-17

TEL 044-946-1308

話をしていただく機会を設定していきます。十二月より、自己負担減免の手続きが始まるというので、十一月中には、臨時総会を開きます是非ご参加下さい。

## 職員研修旅行報告

ご協力ありがとうございました

おかげさまで、有意義な職員研修会を行うことができました。緊急の連絡も入らず、仲間たちの協力もありがたいと思えました。この紙面を借りて報告します。

### 転換期を迎えている「はぐるま」

創立二十二年を迎える「はぐるま」は、創立期の苦闘を経て、一定の方針を軌道に乗せ、それに向かって仲間たちは変化を遂げつつ、自立への道を歩んできました。仲間・保護者の方々、組織を支える職員も年と共

に体力・精神力・財力等も減少せざるを得ない時期にさしかかり、その対応を早急にしていかなければ、組織存続が困難になると言っても過言ではないでしょう。

先日の職員研修旅行は、単に親睦や勉強会だけではない、画期的な行事として、年度当初より計画化されました。変革を迫られている今、職員の団結はとも必要だったのです。

研修のテーマは「食」について

食事に関しては、仲間たちの健康管理・生活技能獲得・係り仕事を通しての仲間連帯に、直結する重要な分野だと、捉えています。分科会方式で活発に意見交換・状況報告が各人から出されました。七ホーム構成メンバーの特性が異なる中、摂取量・食料・カロリー量・食べ方等についての工夫、考え方などが活発に討議され、二日目の全体会で報告されました。自分の所属するホームで、悶々とするのではなく、他のホームでの実践を学ぶことにより、新たな挑戦を

各人が感じ得たことは、大きな収穫となったことでしょう。

一人ひとりの仲間たちの特性が著しく異なる時期を迎え、一般の家庭と同じように、食事の内容や量を変えることは、ホーム職員の取り組むエネルギーと技量・知識が問われ、日々大奮闘している中、一歩前進できた研修であつたと感じます。

夕食後は、懇親会で中堅若手職員が、ホーム職員を盛り上げる役を買って出て奮闘。二・三年で慣れてきた頃に辞めてしまう、福祉関係でよくありがちな事で、はぐるまで四・五年勤務している職員に頼もしさ・今後の展望と、組織発展に末永く貢献していただきたいと強く祈るのは、私ばかりではないでしょう。(中山記)

### はぐるま職員研修旅行

多くの収穫を得て

第二ホーム職員 山本 糸子

今回の職員研修旅行は、一泊二日全職員対象という創立以来始めての試みで、総勢三十七名の参加で画期的なことでした。研修会の一日目は四時から二時間の分科会、時間が足りないほどに活気あふれる、研修風景となりました。配布資料の中に、第四ホームでの「これからの食事のあり方を模索する」という実践記録も掲載されており、非常に充実されたものでした。

さて一日目の、分科会では、どの会も非常に熱がこもり、各ホームがいかに「食」について大事に考えているかが伺えました。例えば私の所属の会では、生活習慣病を持っている・その予備軍、肥満に注意が必要。比較的健康な仲間が、混在しているホームでは食事の「質」もさることながら「量」について非常に悩む。個々の量を定める必要があるのに、仲間は納得してくれない。治療の方は理解してくれる場合があつたが、予備軍、肥満防止となると、量を減ら

すことが難しい。ということが出されました。この分科会でのまとめは、ホーム・作業所・家庭が常に連携を持ち、同じ方針で支援していくことが大切である(生活全般にも言えることである)ということでした。

二日目は、朝食後すぐまとめの研修です。五分科会それぞれの報告は、「量」に関してはほとんどの分科会で問題になっていました。その他に、年とともに代謝の落ちてきた仲間へのバランスのよい食事とは。金曜日のお楽しみ会での、お菓子と飲み物の内容は、仲間の学習が必要だ。等の報告がありました。

終わりに企画担当作業所・第一職員高木より総括として・・・  
「はぐるまでは、仲間と一緒(連帯)に行動することを大切にしてきました。その流れで食事の場面でも、「同じに分けるんだよ」と常に声をかけてきました。個々の状態を見直してみると、その限りではなくなっ

ている現状があります。これからは仲間個々の健康状態等をよく把握し、質や量を考慮した食事の提供を考えていかなければならない時期にきたようです。

「違うことを知る」難しいテーマに今後も作業所、ホーム共に続けて学習していきましよう。とのまとめがあり、最期に澤理事長より激励の言葉を頂いて、二日間の研修を終えました。

宿の人が二日間も研修をする団体は珍しいと驚いていたとの事。

尚、研修会に先立ち、箱根仙石原にて、リフレッシュハイキング。雨予報が外れての好天氣に気分も一層明るく、遠くに紅葉の未だこない緑の山々、天を仰げば白い雲に青い大空。尾花になりつつあるすすき野原の中の散策は心地よいものでした。

ハイキングの汗を宿舍の温泉で気持ちよく洗い流し、研修会へ。研修会で頭を使つた後は、お楽しみ夕食兼懇親会。新旧職員が杯と挨拶を交わしている姿は、とてもほ

ほえましいものでした。食後はカラオケもよし、ゆつたりと温泉につかるもよしと、大いに交流を深めた夜でした。

「あの様に熱心に話し合う会に出たのは、初めて」「あれだけの時間ではとても足りない。もっと違う問題も話し合いたい」

「カラオケ皆さん上手！次々と歌って聞いて、頭の中が音だらけ」「たくさん職員さんと知り合い、話し合えてとてもよかった」などの感想を耳にしました。

今回の研修旅行は、全泊ホームへの配慮をしてくださった職員さん、企画担当職員さん、そして十五日の朝、早期帰宅にご協力いただいた保護者の皆様のおかげで実現できました。本当にありがとうございます。私たちホーム職員は、この研修の収穫を無駄にせず、仲間たちに還元していき、食に限ることなく、更により支援をめざして行きたいと思っております。

## 研修旅行を終えて

第2作業所職員 金田 圭二

職員にとって、作業所とホームで、一番違うところは、一人職場であるか否かであると思います。

作業所であれば、「ああだろうか、こうだろうか」と、複数の職員で相談することもできますし、ひとりの職員が一杯いっぱいの状態であれば、別の職員がフォローすることもできます。

しかし、ホームではそうもいかないことが多い、仲間がけんかしても、遅刻しそうになるのを急かすのも、仲間それぞれの体調管理も、現場にいるひとりの職員で判断しなければならぬことが多く、プレッシャーを感じることも多いと思います。

つまり、そういった状況では当然「不安」になってしまいうこともあるでしょうし、それはいくらひとりでも考えても解消できないものです。ホーム専任であったり、新しい

職員であればなお一層そうであると思いません。

しかしながら、今まで、全員の職員が集まれる機会がありませんでした（必ず誰かは「勤務」しているのです）。

そういった意味では今回の旅行で、顔を合わせることができたこと、日頃思っていたことを明らかにできたことは、とても大切であったと思っています。

このたびのテーマは「食事について」がメインでした。ホームというのは生活の基盤を支えているものなので、健康に毎日過ごせることが第一であると考えます。当然ただおいしければいいということではなく、肥満や成人病予防に努めなければならず、これははぐるまだけではなく、どのホームも共通していることでしょう。

これからますます仲間が変化していくだろうと予想される中で、栄養のバランスを考えるだけでなく、量や硬さなどについても、一人一人の状態に合わせて変えていくことが必要になってくるでしょう。



「みんなおなじ」から「それぞれにあった」に、職員も仲間も考え方を軌道修正していく必要があります。まさしく食事のあり方というのは永遠のテーマであり、そのことについて考えるきっかけになった研修は大変意義深いものであったと思っています。

## □そのとき・自宅に戻れない

### 二名の仲間は

外部宿泊施設「やじろべい」で過ごしました。先方の報告書には、私たち職員の心配をよそに、特に問題はなかったようです。本人は、「おもしろかった」と第一声。一段と大人になって帰ってきました。はぐるま で培った行動をいかに発揮したことは、少々の矯正すべき点はあったとしても、評価に値します。

協力ありがとうございました。

## 千ヨット耳奇りな はなし

自立支援法が成立して、仲間の生活、施設の運営が非常に厳しくなることは、前文でお知らせしたとおりですが、だからといって、手をこまねいて、だまって推移を見守っているわけにはいきません。仲間の所得保障に向けて、また、施設の安定に向けて、行動を起こさなければならぬと思っていた矢先、

### 「社会福祉法人読売 光と愛の事業

#### 団 よみうりランド花ハウス」

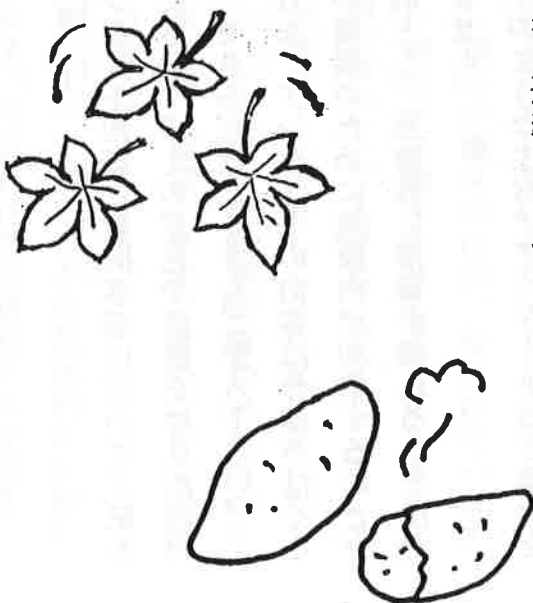
より、地域交流センターの活用を打診されました。花ハウスは、特別養護老人ホームを運営し、地域交流センターは施設の一部にあり、喫茶室が設備されています。急なお話だったので、理事長と事務局で見学や今後の運営の仕方などを話し合い、試験的に運営をしていくことになり、只今準備をしています。仲間自治会にも打診した結果、「自分たちのお店を持つ」という仲間たち

の目標に少し近づくのではないか、その時の練習にもなる。という理由で是非やりたいという意見にまとめ、共に取り組むことになりました。

仲間たちの今まで培ってきた力を、今度は広く地域にかえしていく取り組みに、大いに期待します。

詳しくは、臨時総会の折にお知らせいたします。

仲間が見学会を計画中、たくさん的人数は難しいので、まずは保護者会の役員さん中心に声をかけさせていただきます。詳しくは後日連絡をします。



# はぐるまアンケートのお願い

毎月定例の法人事業推進委員会で、はぐるまの今後の施設運営や新事業について話が進められています。

4年前の小規模法人を目指した際、はぐるまの将来像をみんなで考えていこうという主旨で保護者、職員にアンケートをとり、当時のはぐるまの現状把握と、将来に向けた運営の課題や取り組みを導きました。

当時のアンケートが法人化を取得する上で、非常に大きな資料になりました。

あれから4年半経ち、仲間や親の高齢化、障害の重度化、医療的ケアの必要性の高まり、障害者自立支援法の成立等、はぐるまの状況や社会福祉情勢もめまぐるしい勢いで変化しています。

はぐるまも、今までの理念や事業を維持していきながら、新たな道を模索していくことが急務になっています。

こうした大きな変革期の中、もう一度はぐるま関係者（保護者、仲間、職員）にアンケートを行い、現状の把握と今後の施設運営に関する思いや希望を確認し、整理していきながら、はぐるまの展望を考えていきたいと思えます。

アンケート結果を土台にして法人事業推進委員会として、今後のはぐるまのあるべき姿や取り組みについて考えていきたいと思えます。

アンケート用紙に質問事項に沿ってご記入ください。多くの意見や要望を知りたいので、できるだけたくさんご記入下さい。なお、アンケートの内容は今後のはぐるまの発展のために施設内で利用することを目的とし、施設外に情報が漏れることはありません。

以上のような主旨でアンケートのご協力をよろしく願います。

(アンケート用紙は 仲間に別紙配布)

## アンケート用紙 (見本)

名前 \_\_\_\_\_

親の年齢区分に○をつけてください  
 1、～50歳 3、～55歳 4、～60歳 5、～65歳 6、～70歳 7、71歳以上  
 仲間の年齢区分に○をつけてください  
 1、～21歳 2、～25歳 3、～30歳 4、～35歳 5、～40歳

Q1、保護者が緊急の場合、あずけるところがありますか。有・無	Q2、保護者亡き後の生活の場はどこですか (考えられるところをすべてお書きください)
有→それはどこですか	
無→どういう所があればよいと思えますか (有の方も記入してください)	
Q3、不安に思っていることはありますか 有・無	Q4、どんな施設があればよいと思えますか
有→それはどんなことですか。すべてお書きください	日中活動の場→
	生活の場→
Q5、家庭の状況で、近い将来問題になりそうなことはありますか (今現在問題になっていることも含めて)	Q6、その他、ご意見

以上 ご協力ありがとうございます